

## 志賀原子力発電所 2号機 営業運転の開始について

平成18年3月15日  
北陸電力株式会社

志賀原子力発電所 2号機（改良型沸騰水型、定格電気出力 1 3 5 万 8 千キロワット）は、昨年 4 月 2 6 日以降試運転を行ってきましたが、本日 3 月 1 5 日午前 1 0 時 4 0 分、経済産業省による使用前検査に合格し、営業運転を開始いたしました。

志賀 2号機は、国内で稼働中の商業用原子力発電設備としては 5 5 基目となります。

また、志賀 2号機の営業運転開始により、志賀原子力発電所は志賀 1号機（沸騰水型、定格電気出力 5 4 万キロワット）と合わせて総出力約 1 9 0 万キロワットとなりました。

これにより、当社の総発電設備容量（他社受電分含む）に占める原子力発電設備容量の割合は約 2 5 %となりました。

なお、志賀 2号機の営業運転開始に伴い、同日付で志賀原子力発電所建設所を廃止いたします。

今後とも、志賀 1号機および 2号機の安全・安定運転をさらに徹底し、地域の皆さまの安心と信頼を得られるよう努めてまいります。

以 上

別紙・・・・・・・・志賀原子力発電所 2号機の概要・主要経緯・特徴

## 志賀原子力発電所 2号機の概要・主要経緯・特徴

### 1. 志賀原子力発電所 2号機の概要

- ・所在地 : 石川県羽咋郡志賀町
- ・原子炉型式 : 改良型沸騰水型軽水炉 ( A B W R )
- ・定格電気出力 : 1 3 5 万 8 千キロワット
- ・燃料集合体 : 8 7 2 体
- ・着工 : 平成 1 1 年 8 月 2 7 日
- ・営業運転開始 : 平成 1 8 年 3 月 1 5 日

### 2. 主要経緯

- ・平成 5 年 5 月 2号機の建設および環境調査の申し入れ
- ・平成 7 年 11 月 環境影響調査書・環境影響評価準備書を提出
- ・平成 8 年 11 月 第一次公開ヒアリング
- ・平成 9 年 3 月 第134回電源開発調整審議会上程
- ・平成 9 年 5 月 原子炉設置変更許可申請
- ・平成 10 年 9 月 準備工事開始
- ・平成 10 年 10 月 第二次公開ヒアリング
- ・平成 11 年 4 月 原子炉設置変更許可
- ・平成 11 年 8 月 着工
- ・平成 13 年 6 月 原子炉建屋基礎基盤検査合格
- ・平成 15 年 9 月 原子炉圧力容器据付
- ・平成 17 年 4 月 試運転開始 ( 燃料装荷開始 )
- ・平成 17 年 5 月 初臨界
- ・平成 17 年 7 月 試運転のための発電開始 ( 初並列 )
- ・平成 17 年 10 月 電気出力 10 0 % 到達
- ・平成 18 年 3 月 営業運転開始

### 3. 志賀原子力発電所 2号機の特徴

#### (1) 建物・構築物の特徴

隣接する 1 号機と同様に、主要な建物は半地下方式とし建物の高さを低く抑え、外観もアイボリーと淡いブルーを採用して周囲環境に溶け込むよう配慮しました。

また、冷却用海水の取放水路についても海底トンネルを採用し海岸の保護を図るとともに、温排水による海水の温度上昇範囲を小さくするため、沖合いの水深の深い所から高速で放水する、水中放水方式としています。

## (2)機器の特徴

改良型BWRは、安全性・信頼性のより一層の向上などを図るため、これまでに培ってきた原子力発電所の建設や運転・保守の経験を踏まえ、国、メーカー、電力会社で開発実証された技術を集大成し、昭和50年代初めより十数年の歳月をかけて開発してきたものです。

改良型BWRで採用されている改良技術は、国外の発電所で十分な実績があり、国内でも東京電力(株)柏崎刈羽原子力発電所6号機・7号機や中部電力(株)浜岡原子力発電所5号機で採用されています。

- ・鉄筋コンクリート製原子炉格納容器

原子炉建屋と一体構造となる鉄筋コンクリートの原子炉格納容器(鋼板内張)を採用し、十分な耐震性を確保しています。

- ・改良型制御棒駆動機構

従来の水圧駆動方式に電動駆動方式を加え、制御棒駆動源を多様化し、信頼性を向上しています。

- ・原子炉内蔵型再循環ポンプ

原子炉再循環ポンプを原子炉圧力容器に内蔵することにより、原子炉圧力容器外部の配管系統を簡素化し、安全性を向上しています。

- ・改良型中央制御盤

原子力発電所における長年の運転経験と研究成果を踏まえ、最新のコンピューター技術に基づく新型の制御装置の導入と大型表示盤を採用し、情報の共有化と監視・操作性を向上しています。

以 上